

# 大会特別規定

1. チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。但し、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議して決定する。
2. 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の30分前とする。第2試合以降は、前試合の4回終了後とし、各チームの監督は、所定のメンバー用紙を4部持参し本部に提出する。なお、攻守の決定は、試合開始前に、球審立会いの下、行う。
3. 試合成立は5回とし、暗黒、降雨によるコールドゲームは成立する。なお、天候・ケガによる中断があった場合は、本部席の判断によりロスタイムとする。また、90分の計測は本部席を基準とする
4. 暗黒・降雨・雷などで試合が途中で中止になった場合は、4回以内で中止になった場合でも翌日の第1試合に先だってサスペンデットゲームを行う。5回を過ぎている場合は、試合成立となるが同点の場合はサスペンデットゲームとなる。但し、決勝戦に限り5回以前に中止になった場合は、両チーム優勝とする。延長戦は行わず、特別延長戦(タイブレイク方式)を採用する。※決勝戦については、90分以内の制限はなく、7回戦を行う。勝敗が決しない場合は8回より特別延長戦に入る。決勝トーナメント及び交流戦は5回7点差以上ついた場合はコールドゲームとする。

## 【特別延長戦(タイブレイク方式)】

- ① 7回終了もしくは90分を超えた回の裏の攻撃が終了した時点で、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死満塁の状態から行うこととする。
  - ② 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順(継続打順)のものとする。投手は継続して7イニングを越えて投げられる。
  - ③ この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者、そして、2塁走者の前の打順のものが3塁走者となる。
  - ④ この場合の代打及び代走は認められる。
  - ⑤ 勝敗が決しない場合には以後継続打順でこれを繰り返す。
5. ベンチは、抽選で決まった若い番号が1塁側とする。(先攻・後攻は主将のジャンケンとする。)
  6. シートノックは後攻より行い5分以内とする。但し、状況によって短縮、省略することもある。
  7. メガホンは監督、コーチのみが使用する事が出来る(1チーム1個。鳴り物での応援は一切認めない。
  8. バットリング、鉄棒等の球場への持込みを禁止する。
  9. 事故防止のために、捕手のマスク(軟式用)・レガーズ・ヘルメット・プロテクター・セフティーカップ打者・走者・コーチャーのヘルメットは必ず着用すること。
  10. 突発事故(頭部への死球等)が起きた場合に、審判団が必要と認めた場合、臨時走者を許可する。(臨時走者投手・捕手を除く打順前位の者とする。)
  11. 選手交代の申し出は監督が行う。
  12. ルール上の疑義に対しては、監督が直接質問する事が出来る。
  13. 天候等(降雨・雷)によって、試合の進行を中断することが出来る。
  14. 野球規則3・03原注(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない)と野球規則8・06(1イニングに投手へのアドバイスのためのタイムが2回取られた場合、自動的に投手交代となる)は本大会でも適用する。
  15. ボールデッドゾーンを白線で表示してある球場においては審判の指示による。(野球規則7・05打者と走者が安全に進塁できる場合/参照)
  16. 各チームの監督は、球場を去る前に本部に連絡し、次の試合日程を確認する。
  17. 監督・コーチは選手と同一のユニフォームで背番号をつけること。スパイクは人工芝用スパイク可。尚、監督・コーチはコーチャーボックスに立つ事が許される。(監督30番・コーチ28、29番とする。選手の背番号は0~99以内とする。)
  18. グランド内での練習はシートノックを除き、ダイヤモンド外で行うこと。
  19. 投手は1日7イニングまで投球してよい。(特別延長の場合はこの限りではない)(男女不問)
  20. 大会参加者以外でスコアラーとして1名ベンチ入りすることができる。ただし、中学生に限る。
  21. バットは大会本部が承認したものとす。硬式金属バットは使用可。但し、ビヨンドマックス及び複合バットは使用不可。
  22. その他グラウンドルールはローカルルールを採用する。
  23. 交流試合のみ、両チームより試合球を1試合2個ずつ出し合うこととする。